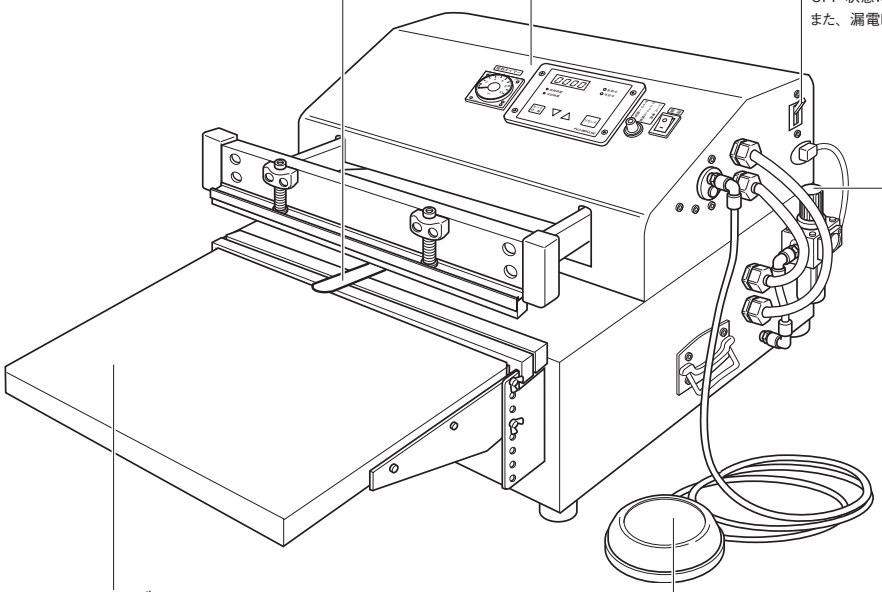
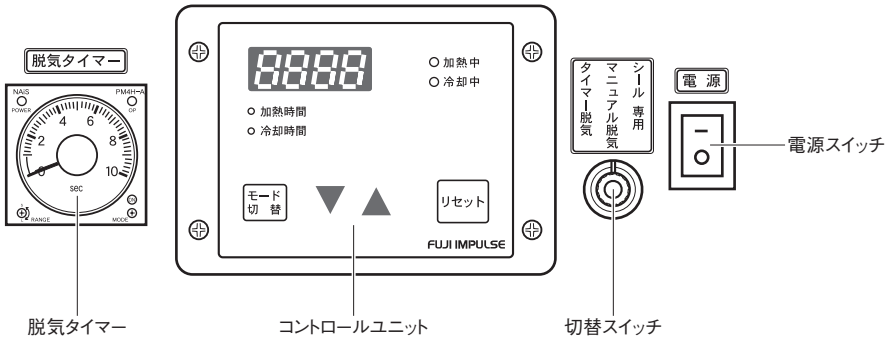
6　各部の名称とはたらき



制御盤の各部の名称とはたらき



6-1　コントロールユニット

● コントロールユニットでシール条件の設定

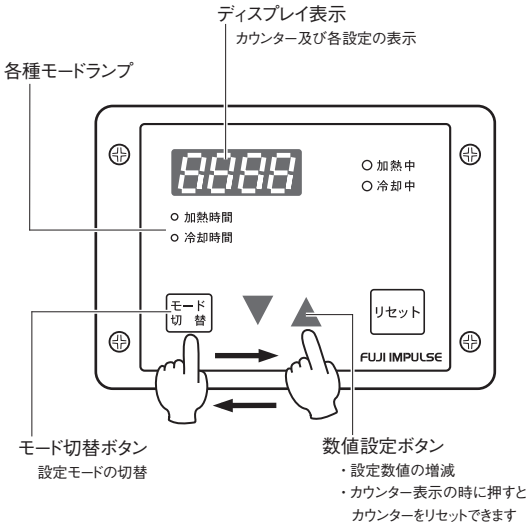
コントロールユニットで加熱時間・冷却時間を設定します。袋（フィルム）の材質、厚さなどにより設定値は変わりますので、異なる袋（フィルム）を使用される時はその都度設定してください。

モード切替ボタンを押すと

カウンター数→加熱時間→冷却時間の順にディスプレイ表示に呼び出せます。

呼び出されたモードはランプが点灯します。

どのモードのランプも点灯していない時はカウンターモードになっている時です。



● 加熱時間の設定

・「加熱時間」モードにして、▲、▼キーで数値を加減して設定します。

［0.1 ～ 2.5 秒の範囲］

・使用されるときの電圧、包装フィルム（袋）の材質により適切な加熱時間は異なります。

・シールができる最短の時間で設定してください。作業速度が上がり、部品の無駄な消耗を抑えます。

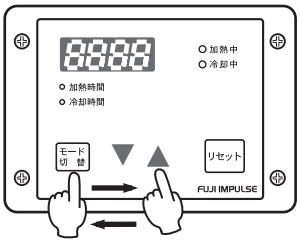
● 冷却時間の設定

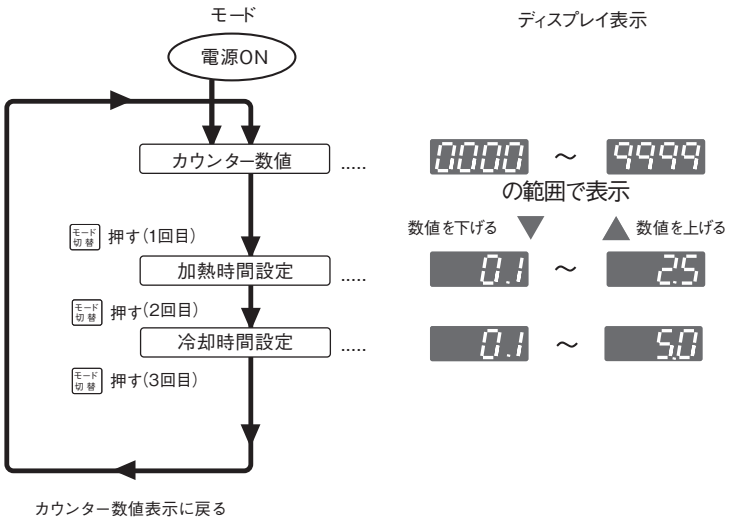
・「冷却時間」モードにして、▲、▼キーで数値を加減して設定します。

［0.1 秒～ 5.0 秒の範囲］

・冷却時間は加熱時間の 1.5 ～ 2 倍必要です。

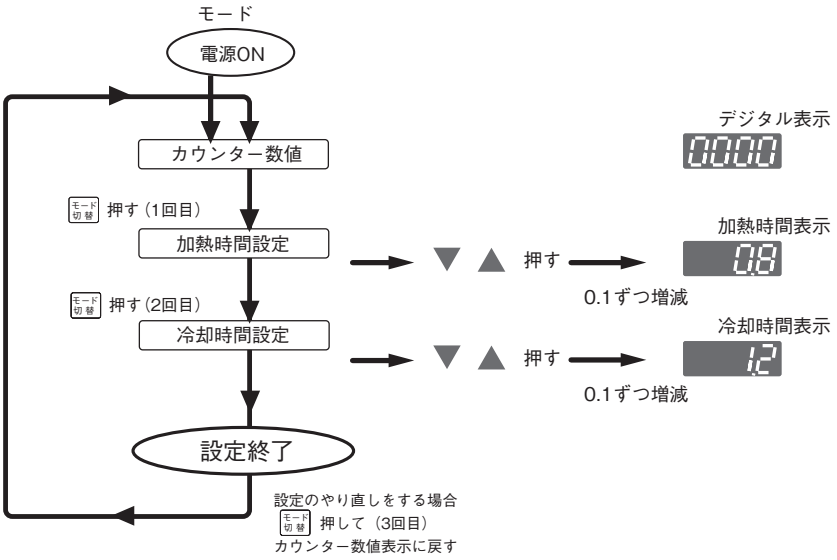
各モードの設定手順





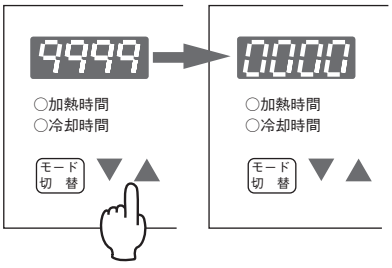
各モードの設定手順例

設定数値例：加熱時間 0.8 秒　冷却時間 1.2 秒



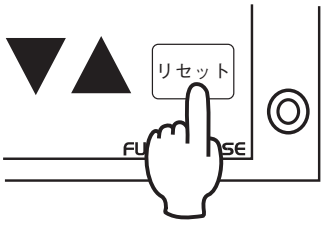
● カウンターのリセット

シール作業を行うとカウンターの数値が 1 ずつ 0000 ～ 9999 の範囲で増えていきます。数値を 0000 に戻したい場合は、カウンター数を表示しているモード状態で▲または▼ボタンを押してください。



● リセットボタン

各操作にかかわらず製品が動き始めた後で、何らかの要因で製品の動きを止めたいときは、「リセット」ボタンを押してください。圧着レバーが上がった初期状態に戻ります。リセットボタンを押してもコントロールユニットで設定した数値は消去されません。



6-2　切替スイッチ

スイッチの切替で次の作業内容が選べます。

● **シール専用**

シール作業のみを行います。

● **マニュアル脱気**

脱気状態を目視にて判断し、エアペダル操作で脱気を停止させて、シール作業を行います。

● **タイマー脱気**

脱気タイマーの設定値の間、脱気が行われ、設定時間経過後脱気が停止し、シール作業を行います。

6-3　脱気タイマー

袋の内部を真空にする時間をセットするタイマーです。
タイマーの回転板を回して脱気時間を設定します。

脱気タイマーの設定時間変更

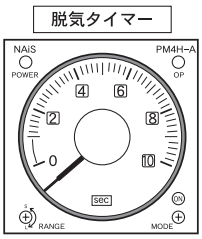
脱気タイマーの設定時間は、脱気タイマーの左下にあるRANGE 調整ネジをプラスドライバーで回すことで表示がかわり、下記のような設定の変更ができます。

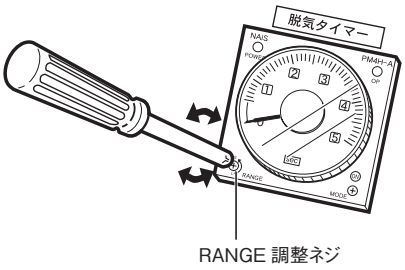
設定時間の範囲

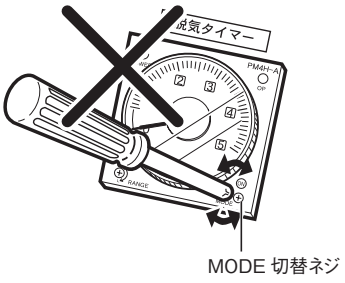
（sec・秒）0.1 ～ 1 、0.5 ～ 5 、1 ～ 10 、5 ～ 50
（min・分）0.1 ～ 1 、0.5 ～ 5 、1 ～ 10 、5 ～ 50
（hrs・時）0.1 ～ 1 、0.5 ～ 5 、1 ～ 10 、5 ～ 50
（10h・時）0.1 ～ 1 、0.5 ～ 5 、1 ～ 10 、5 ～ 50

内容物や袋の大きさによって脱気時間を設定する場合、コントロールユニットの加熱時間を「0.1」に下げ、シールしないようにして同じ袋で繰り返し脱気を行い、最適な脱気時間を設定してください。

注 ！　脱気タイマーの右下にある MODE 切替ネジは回さないでください。タイマーとしての機能がなくなります。



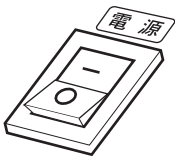




6-4　電源スイッチ

ON 状態にするとシーラーの各機構がスタンバイ状態になります。

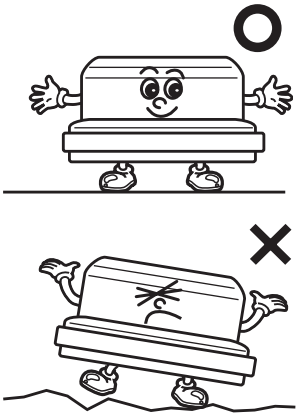
MEMO　電源スイッチを OFF にして、再び ON 状態にすると初期状態になります。



7　準備

7-1　作業場所の確保

安全に効率的に作業するため、適切な作業環境でご使用ください。

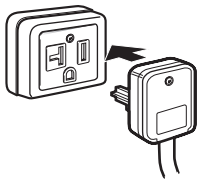


⚠ 警告　傾いたり、段差のある不安定な場所では使用しないでください。製品が倒れたり、設置場所から移動して破損、負傷の恐れがあります。必ず平らな安定した場所でご使用ください。
床面が濡れていたり、水滴・水蒸気がかかる場所では使用しないでください。製品の故障の原因となり、漏電する危険性があります。

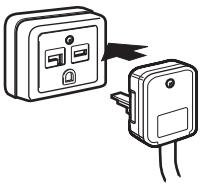
7-2　電源の接続

電源は必ず、製品の消費電力に適合した容量を持つコンセントから直接接続してください。また、プラグは根元までしっかりと差し込んでください。製品の消費電力は「11 仕様」をご覧ください。

100V 仕様機



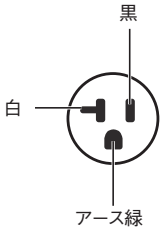
200V 仕様機



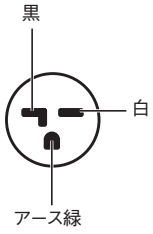
⚠ 警告　消費電力は製品によって異なりますので、コンセントの容量がそれ以上であることを確認の上、直接接続してください。容量の少ないコンセントから電源を取ったり、継ぎ線をしたりすると電圧降下し、製品が正常に動作しないだけでなく、電線やコンセントに発熱して火災の原因にもなりますので、適切な容量になるように電気配線工事をしてください。
※電気配線工事は、電力会社の認定工事店で行ってください。（電気工事、第３種設置工事の施工には資格が必要です）

⚠ 警告　予め組み込まれている標準のプラグを取り除き配線する場合は、接続に誤りのないように確かめて行ってください。コードの接続は左のようになっています。アース（線）が所定の端子に接続されていない場合、電源側で短絡（ショート）や漏電をします。

100V 仕様機



200V 仕様機



7-3　エアペダルの取付

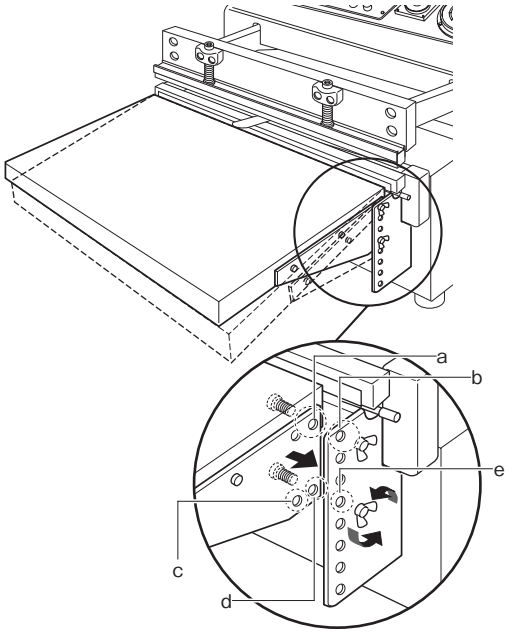
附属部品のエアペダルを製品本体右側面にあるエアスイッチ本体側のエルボに差し込んでください。

7-4　テーブルの高さと角度の調整

テーブルの高さと角度は、製品前面両端のアングルの穴への取り付け位置の組み合わせを変えることにより調整できます。

1　テーブル穴 a とアングル穴 b を合わせ、任意の高さに取り付けます。

2　テーブル穴 c または d を選択することでテーブル角度を変えることができます。cまたはdを選び、アングル穴 e と合わせて蝶ナットで固定します。
c で固定する場合、テーブルに角度がつきます。
d で固定する場合は、水平になります。



7-5　エア源のセットアップ

V-401NTW シリーズは製品を駆動させるために別途エアコンプレッサーが必要となります。適合するコンプレッサーをご使用ください。

適合コンプレッサー

クリーンエア：1.5kW 、165L/min 、0.6MPa 以上

エア配管

エア配管はチューブまたは、エアホースを使用してください。

⚠ 注意　チューブまたは、エアホースをエアコック（エア接続口）の根元まで差し込みホースバンドでしっかりとめてください。

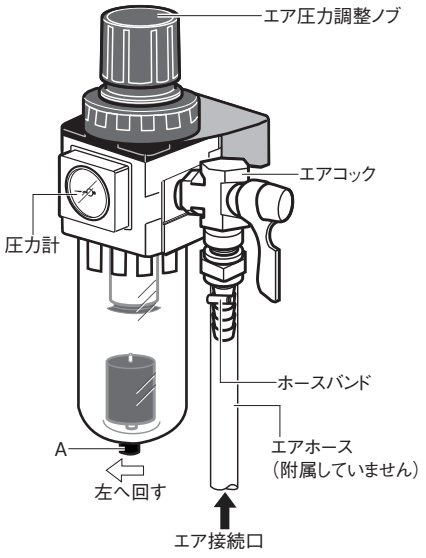
以下作業を始める際、フィルタレギュレータのエアコックを開くと、エア圧力でレバーが開きます。充分注意して準備してください。

エアコック

エア源の接続を行ったのち、フィルタレギュレータのエアコックを開き、エア圧力の調整を行ってください。

作業終了時には、エアコックを閉じるようにしてください。

フィルタレギュレータ



ドレン抜き

このフィルタレギュレータはオートドレンタイプとなっています。フィルタレギュレータ（右イラスト）の A の部分を左方向に回すと、溜まったドレン（水分）抜きができます。

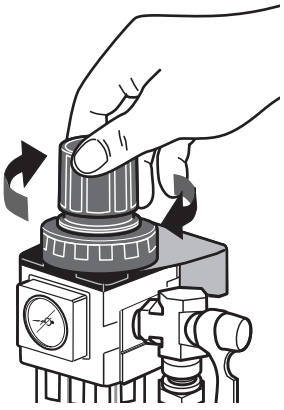
注 ！　ドレン抜きは、毎日必ず行うようにしてください。

エア圧力の調整

フィルタレギュレータのエア圧力調整ノブを引き上げ、時計方向（右回転）に回すと、エア圧が上がります。

設定位置でエア圧力調整ノブを押し、溝に入れてロックしてください。

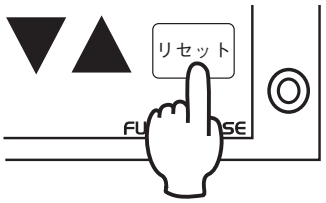
圧力設定値：0.55MPa



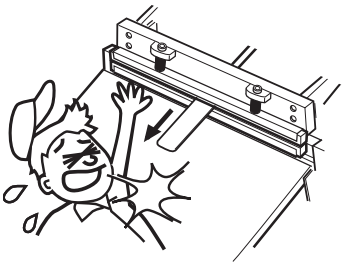
8　正しい使い方

この製品を使用される時は以下の『正しい使い方』をよく読みいただき、お使いください。
以下の方法以外の操作方法で使用されますと故障の原因となり、たいへん危険です。

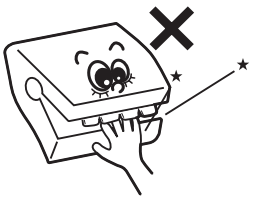
MEMO 作業の途中で中断したいときは、リセットボタンを押すと初期状態に戻ります。



⚠ 注意 切替スイッチを「マニュアル脱気」「タイマー脱気」に設定して使用する場合、1 作業工程終了後、数秒経過するとノズルが自動で前へ出てきますので、ノズルの前進に注意してください。手や顔を近づけるとぶつかる恐れがあり、また、袋をシール部前面に残したままにしているとノズルの前進によりシールされた袋や中の商品を傷める場合があります。
圧着レバーが開けば、シールされた袋は取り出してください。

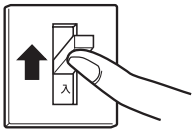


⚠ 注意 袋の口を閉じる際、圧着レバーが降りてきます。シール面に袋をセットする時は、指をはさまないよう充分安全に注意して作業を行ってください。

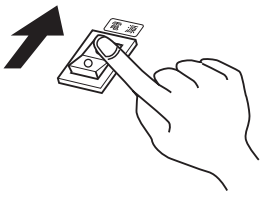


⚠ 注意 シール中はヒーター部が加熱しますので、ヒーター部に触れますと火傷する恐れがあります。シール中は、絶対にシール部に触れないでください。

1 漏電ブレーカー「入」にする

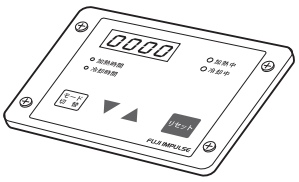


2 電源スイッチ　ON



3 加熱、冷却時間の調整

調整方法は「制御盤の各部の名称のはたらき」をご覧ください。



8-1　シール専用

【シール専用】

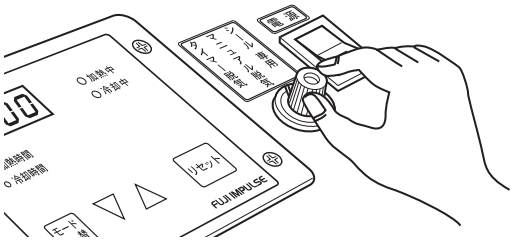
●エアペダルを操作するだけで簡単にシーリングができます

切替スイッチ
シール専用

◎準備ができましたら、下記の手順でシーラーを作動させてください。

1 ～ 3 までは全ての作業（シール専用・マニュアル脱気・タイマー脱気）で同じ操作です。

4 操作切替スイッチ‘シール専用’



5 シール面に袋をセット → シール位置を確かめながら、袋の両端を整える

6 エアペダルを踏む（1 回目） → 圧着レバーが下降し、ノズルと袋をスポンジで挟み込み密封
（圧着レバーが閉じるまで踏んでください）

安全の為の機構として圧着レバーの降下途中で足をエアペダルから離すと
圧着レバーが開くようにプログラムされています

7 エアペダルを踏む（2 回目） → 圧着レバー、シール面に密着（シール開始）
↓
コントロールユニット作動（加熱→冷却ランプ点灯）
↓
シール終了後（加熱、冷却ランプ消灯）圧着レバー上がる

この間、自動的に作動

8 シール終了

シール終了後、圧着レバーが開く

作業を終了する場合は「8-4 作業終了のしかた」をご覧ください

8-2　マニュアル脱気 + シール

【マニュアル脱気 + シール】

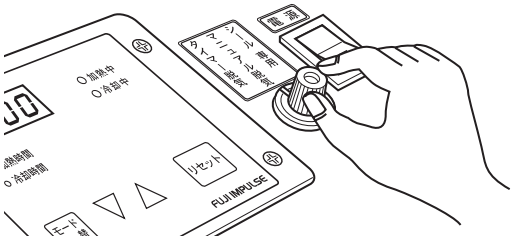
●目安判断による脱気とシーリング作業を連続して行えます。

切替スイッチ
マニュアル脱気

◎準備ができましたら、下記の手順でシーラーを作動させてください。

1 ～ 3 までは全製品同じ操作です。

4 操作切替スイッチ'マニュアル脱気'



5 エアペダルを踏む（1 回目）→ ⚠ 注意　自動的にノズルが前へ出てきますので充分注意してください

6 シール面に袋をセット → 内容物の入った袋にノズルを差し込みシール位置を確かめながら、袋の両端を整える

7 エアペダルを踏む（2 回目）→ 圧着レバーが下降し、ノズルと袋をスポンジで挟み込み密封

ノズルと袋をスポンジで挟みましたら、エアペダルを放してください。
袋の内容物をできるだけ、ノズルの口に近づけるようにして袋を整えます。
安全の為の機構として圧着レバーの降下途中で足をエアペダルから離すと圧着レバーが開くようにプログラムされています

8 エアペダルを踏む（3 回目）→ 脱気開始

▼

目安にて適当な脱気状態を判断する ← 目安にて適当な脱気状態になれば、、、

▼

9 エアペダルを踏む（4 回目）

この間、自動的に作動

- 脱気終了
- ▼
- ノズル後退
- ▼
- 圧着レバー、シール面に密着（シール開始）
- ▼
- コントロールユニット作動（加熱→冷却ランプ点灯）
- ▼
- シール終了後（加熱、冷却ランプ消灯）圧着レバー上がる

10 脱気 + シール終了

シール終了後、圧着レバーが開く（圧着レバーが開くと、袋を取り出してください）

連続作業時ノズルが前に出て作業待機します。シール面に袋をセット（作業を続ける場合は再び 6 へ）

作業を終了する場合は「8-4 作業終了のしかた」をご覧ください

8-3　タイマー脱気 + シール

【タイマー脱気 + シール】

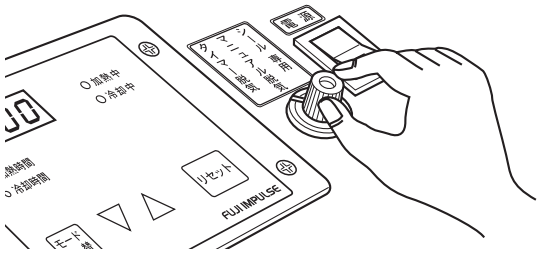
●タイマーでの時間設定による脱気とシーリング作業を連続して行えます。

切替スイッチ
タイマー脱気

◎準備ができましたら、下記の手順でシーラーを作動させてください。

1 ～ **3** までは全製品同じ操作です。

4 操作切替スイッチ‘タイマー脱気’



5 脱気タイマーセット → 内容物に応じて脱気時間を設定する（「6-3 脱気タイマー」参照）

6 エアペダルを踏む（1 回目） → ⚠ 注意　自動的にノズルが前へ出てきますので充分注意してください

7 シール面に袋をセット → 内容物の入った袋にノズルを差し込みシール位置を確かめながら、袋の両端を整える

8 エアペダルを踏む（2 回目） → 圧着レバーが下降し、ノズルと袋をスポンジで挟み込み密封

ノズルと袋をスポンジで挟みましたら、エアペダルを放してください。
袋の内容物をできるだけ、ノズルの口に近づけるようにして袋を整えます。
安全の為の機構として圧着レバーの降下途中で足をエアペダルから離すと圧着レバーが開くようにプログラムされています

9 エアペダルを踏む（3 回目） →

- 脱気開始
- 脱気タイマーで設定した時間で脱気終了
- ノズル後退
- 圧着レバー、シール面に密着（シール開始）
- コントロールユニット作動（加熱→冷却ランプ点灯）
- シール終了後（加熱、冷却ランプ消灯）圧着レバー上がる

この間、自動的に作動

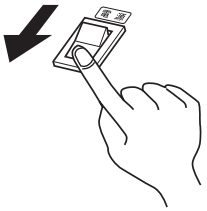
10 脱気 + シール終了

シール終了後、圧着レバーが開く（圧着レバーが開くと、袋を取り出してください）
連続作業時ノズルが前に出て作業待機します。シール面に袋をセット（作業を続ける場合は再び **7** へ）
作業を終了する場合は「8-4 作業終了のしかた」をご覧ください

8-4　作業終了のしかた

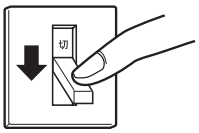
11 切替スイッチ‘シール専用’にする

12 電源スイッチ　OFF



▼

13 漏電ブレーカー「切」にする

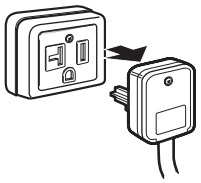


▼

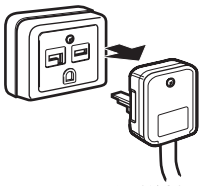
シーラーが停止します

14 作業終了

⚠ 注意　長時間使用されないときは電源プラグもコンセントから抜いてください。



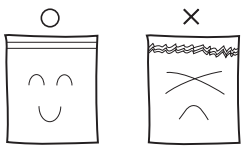
100V 仕様機



200V 仕様機

シールの仕上がり状態について

インパルス方式のシーラーは、シール条件として加熱、冷却が重要であり、シールの良否を大きく左右します。また、異なる包材、内容物に於いて加熱時間、冷却時間の最適な設定が異なりますのでご注意ください。



⚠ 注意　異なる包材、内容物における最適なシール状態がお客さまの責任において確認してください。ガゼット袋の場合、厚みが場所によって異なりますので密封されているかどうか、必ず確認してください。
【例：水中で袋を押し、気泡が出ないか確かめるなど】

附属部品の中にシールサンプルを入れておりますので、ご参考にご利用ください。